

ふるさと Something NEWS

第24回

地方が貢献するSGDs

— 地方快活・ふるさと快活で 持続可能

一般社団法人 洸楓座
 一般社団法人 e f c o . j p
 代表理事 佐藤 建吉

▼東京都庁からの眺め

新宿の東京都庁に用事があり、45階の展望室にエレベーターで登った。55秒で登ると説明があった。東京の、都庁の、最上階はまさに日本の最上級のポイントである。当日は、晴天ではなく富士山の頂上を見るにはできなかつたが、眼下には都心のビル群を眺望することができた。この光景は、すべて人の手で造られたということを感じる。人間の偉大さを確認できる。

この日の展望室は、平穩な日常の象徴であり、外国人観光客の人気の場

所でもある。そのフロアには、「都庁おもいでピアノ」と名づけられた黄色のピアノがある。草間彌生によるデザインで、水玉模様で覆われている。来場者が弾くことができる。演奏者には、隠れてプロのピアニストがいることもあり、来場者をうならせる。音楽は、通訳や翻訳器なしで国際交流が出来る。

東京の魅力は何であろうか？地方には東京に勝る自慢や誇りや何か something はないのだろうか？

▼『SDGsと日本』

都庁帰りに書店に寄

表1：一住宅当たりの住宅延べ面積

順位	都道府県	面積 (m ²)
①	富山	152.18
②	福井	146.16
③	山形	141.51
④	秋田	138.61
⑤	新潟	134.93
⑥	根川	130.73
⑦	石川	130.21
⑧	長野	127.84
⑨	岐阜	126.09
⑩	奈良	124.23
④④	神奈川	76.62
④⑤	沖大	76.28
④⑥	大阪	76.22
④⑦	東京	64.48

り、手にした本が『SDGsと日本』であった。SDGsには17の開発目標があるが、その遂行は極めて日本的である。SDGsは、いま日本でも脚光のビジネスワードになっている。本来は、国連の主導する「持続可能な開発目標」であり我が国も、政策としてお

わりのある都道府県データを、5段階の濃淡で区分けし地図表示している。表題の本は、SDGsの目標と関

図1：保育園と幼稚園の待機児童率



「教育の機会」では、待機児童率を上げ、図1のように示している。被災3県、首都圏の都府県、近畿府県、北九州圏などの色が濃く、保育園や幼稚園に入

表2：国指定文化財の件数(人口1万人あたり)

順位	都道府県	件
①	奈良	14.3
②	京都	12.4
③	滋賀	9.8
④	和歌山	7.3
⑤	根取	6.0
⑥	鳥取	5.9
⑦	香川	5.8
⑧	高知	5.7
⑨	福井	4.7
⑩	石川	4.3
⑩	東京	2.6
⑩	大阪	1.7
⑩	北海道	0.5
④⑦	北	0.4
④⑦	埼玉	0.4

また、地方の方が、不登校率も低く、子供の学力の達成度も高い傾向にあり、地方の優位性ともいえる。

また、地方の方が、不登校率も低く、子供の学力の達成度も高い傾向にあり、地方の優位性ともいえる。

▼東京と地方の比較

表2には、国指定文化財の件数を示している。東京は20位である。奈良と京都は別格であるが、滋賀と和歌山、鳥根と鳥取、香川と高知、そして福井と石川が10位内であり、山形や秋田も20位内にある。地方は、文化財「地方快活」や「ふるさと快活」として、日本再生を図りたいと思う。それは、すなわち、日本の持続可能性であるといえる。

連載・イベント